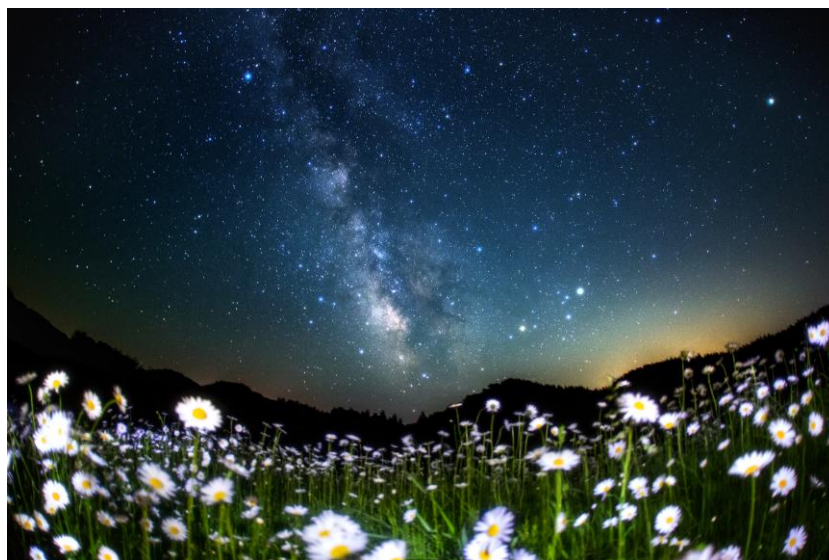


各 位

2018年8月10日
株式会社インプレス

この夏は星空を見ながら撮影を楽しみませんか？
美しい星空風景を撮るための内容満載
『夜の絶景写真 星空風景編』8月10日（金）発売

インプレスグループでIT関連メディア事業を展開する株式会社インプレス（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：小川 亨）は、美しい星空風景を撮るためのテクニック書『夜の絶景写真 星空風景編』を2018年8月10日（金）に発売いたします。



■星空の知識と撮影の知識の両方を1冊で身につけることができる

写真撮影の中で最も難しいものの1つに挙げられる星空の撮影。通常の風景写真の撮影と違い、カメラ任せのオート設定では暗い夜空を撮影することができず、知識とテクニックを要するためです。そこで書籍で学ぼうとする人も多くいますが、従来の「星空」をテーマにした書籍では、「星座の名前や季節ごとの代表的な星座」「星空の撮影方法」を分けて説明をしているものが多く、両方の知識を得るには2冊の本を買う必要がありました。

本書は、これらを一冊にまとめた撮影テクニック書です。夏の天の川や冬のシリウスなど季節ごとに代表される星々が夜空に輝く理由や時間ごとの見え方の違いから、それをどのようなカメラの設定にすれば美しく写せるのかまで、一冊で2つの内容を網羅しています。本書を読んでいれば、星座はなぜ変化するのか、季節によって空に輝く星の違いなどを理解しながら、自然と撮り方まで身につけている内容になっています。

■しし座流星群、皆既日食・月食など人気の天体ショーの撮り方もわかる

2018年8月12日から13日にかけてはペルセウス流星群がもっとも多く見られる日です。流星群はその時間に夜空を眺めていても、どこで流れたのか分かりにくいものです。本書ではしぶんぎ座流星群、ふたご座流星群を含め、3大流星群の見せる方向や確実に写すための方法を詳しく解説。他にも空をドラマチックに見せるイベントといえば皆既月食・日食が上げられますが、食が変化する様子や変化にかかる時間を写真とともに解説。その変化の写し方もデータと共に紹介しています。



02 桜の孤木と天の川の競演をうろ

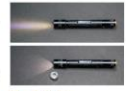
山中のまだ雪が残っている一角に1本の桜が咲いていた。その孤高の姿は、天の川の川によってうろつき見えてきた。

カメラ	キヤノン EOS 5D Mark II	レンズ	シグマ 15mm F2.8 EX DG DIAGONAL FISHEYE	フィルター	FLC	シャッター速度	F2.8	ISO感度	3200	絞り開放	4.950K	露光時間	適尾撮影
-----	---------------------	-----	--------------------------------------	-------	-----	---------	------	-------	------	------	--------	------	------

桜の時期は、「花祭り」などといわれるように何となく春がかったようなさっぱりしない日が多く、黄砂やPM2.5にも悩まされる時期である。しかも桜の花が楽しめるのは約1週間、ベストのタイミングはもっと狭くなる。そのタイミングで夜に咲く日は意外と少ないのだ。もちろん月の明かりも考慮しなければならない。4月になると、夜半過ぎに空に明るい夏の天の川が昇ってくる。早朝近くにはかなり高くなり、人工光もだいぶ少なくなるので、絶好の撮影チャンスといえるだろう。天の川をはっきりと捉えるには、月のない時間帯を選ばなければならない。桜を入れて撮るときは桜の花に白色LEDライトを使って、自然な明るさになるように露光して撮るとよい。

POINT 1 桜にマイナス2,000Kフィルターを付けたLEDライトを当てる

桜の花を表現するには長時間露出の間にLEDライトを照射して桜の花を照らしたりすることが多いが、星空との色温度が異なる画像処理での調整が複雑になる。できれば撮影時に色調を合わせておいた方がよいだろう。星空の撮影では、私は撮影時にホワイトバランス設定も色温度設定で3,900KにしてRAW撮影し、露出時に微調整している。白色LEDライトの色温度は5,000K~6,000Kと高いので2,000Kほどの色温度を下げるフィルター(薄いオレンジ色)をLEDライトの前面にかぶせておこう。よくなっていった富士フィルムの色温度変換フィルターは入手が難しくなったので、照明用のLee Filter (LED コンバージョンフィルター#626など)が適している。最近では白色LEDを電球色に変換するフィルターが販売されており、これはマイナス2,000Kの色温度変換フィルターに相当する。Web上で300円程度で入手可能だ。



光が漏れるLEDライトを当てる。色温度変換フィルターを前面に組み込みLEDライト。下は、露光レンズを取り外した状態で、先が漏れずに露光できる。

POINT 2 桜と星空の明るさのバランスを考える

桜の花はシルエットではなく、明るく見るにはLEDで照らす必要があるが、そうすると星空との明るさのバランスと露出に気を遣うことになる。肉眼で見えたとおりに桜を見るには16mm以下の広角レンズを用いてシャッター速度を30秒以内に抑えたいところだ。F4などの大口径レンズでは、星空にピントを合わせると前景の桜がぼけてしまう。桜は花のディテールが細かく、ぼけるととても残念になるのでF2.8前後のF値にしよう。



桜並木と天の川。桜並木と天の川の流れをバランスよく露光した。前景の桜が明るく見えるように露光する必要がある。

VIEW POINT

桜を中心に露光。全体をセンターフォーミングに露光する。天の川の明るさを調整。露光の露光がつかないようにする。

TECHNIQUE

桜の木の下の下から撮ってみる

桜と星の共演となると、桜の木の空を写し込んでピントが合うことが多いが、右は桜の枝越しに星空を撮影したもの。桜の距離を色々と変えてみたり、さまざまな方向を見てみると、思わぬ面白い発見に出合えるかもしれない。また、露出中にLEDライトを強く照射して桜の花を照らす場合は露出中に他の撮影者がいないかどうかを確かめてから撮影しよう。

カメラの設定のほか、構図や被写体のライトアップなどの撮影テクニックを解説しています

夜空を彩るさまざまな天体ショーを写す

身近に起こる感動的な天文現象を確実に記録する方法を探ってみよう!

ソニーのZEISS オペラ M.ZEISS DIGITAL ED 50mm F1.8 (SEL50F18) 単焦点レンズ。ソニーα6000 (ILCE6000) 一眼カメラ。ペルセウス座流星群の飛跡。毎年8月13日の最盛期に出現のピークを迎えるペルセウス座流星群の様子を長時間露光で撮影した。これは露光中に撮影した数枚の画像の中から、星の写っていない画像を比較 (明) 合成して作成した。

116

流星群

普段はそれほど多く見られない流星が、時にたくさん出現することがある。これが「流星群」だ。流星群は毎年決まった時期に決まった方向から流星が出現するもので、流星が飛び出している中心方向(放射点)の星座の名前をとって「○○座流星群」と呼んでいる。流星群の多くは特異した小さな隕石。毎年決まった時期に放射点したところを地球が通過するので、決まった流星群が見られる。流星群は日にもよって放射点を地球から見ていくと高高度で放射点「巨大日」と呼ばれる。「しぶんぎ座流星群」「ペルセウス座流星群」「みずがけ流星群」は年間3大流星群といわれ、最大時には1時間で100個程度の流星を見ることができ、流星群の活動時間帯に月がないことが好条件の要素となる。晴い空の方がたくさん流星を見ることができからだ。

必要機材は軌跡撮影と同じ

撮影に必要となる機材は軌跡撮影と基本的に同じ。流星の数は月のあるなしや気象条件、流星物質の分布状況によって大きく変化する。

固定撮影でも放射点が見える

流星の流れてくる中心方向「放射点」は露出とともに移動する。そのため固定撮影で撮影した画像を合成したときには、放射点から放射状に流れる様子が見ることができない。

流星群の活動時期

名前	活動時期	極大日	極大時の流星数(1時間あたり)
しぶんぎ座流星群*	1月1日~1月5日	1月4日頃	100
こぎ座流星群	4月16日~25日	4月22日頃	18
みずがけ座流星群	4月19日~5月23日	5月1日頃	10
みずがけ座流星群南群	7月12日~8月19日	7月28日頃	20
ペルセウス座流星群*	7月17日~8月24日	8月11日~14日頃	100
ジャコビニ流星群	10月6日~10月10日	10月8日~10日頃	15
おうし座流星群南群	10月1日~11月25日	11月5日頃	5
オリオン座流星群	10月2日~11月7日	10月21日頃	30
おうし座流星群北群	10月1日~11月25日	11月12日頃	5
しし座流星群	11月10日~11月22日	11月17日頃	15
ふたご座流星群	12月7日~12月17日	12月13日~14日頃	100

*は3大流星群。流星の数は月のあるなしや気象条件、流星物質の分布状況によって大きく変化する。

流星群が流れる方向の調べ方

流星群がどこから来るかを特定する方法は、流星が飛んだ方向を逆にとらえてみる。複数の流星は同じ点で交差することが分かるだろう。その点が放射点になる。時々全く異なる方向に飛ぶ流星や、逆方向に飛ぶ流星もあるが、そのような流星は「散在流星」と呼ばれ、群流星とは区別される。固定撮影で撮影した複数の画像から放射点を求めるには、星を基準に画像を合わせることが必要だ。また、魚眼レンズで撮影した画像は、曲線で写るので放射点の正確な特定が難しい。

117

季節の天体ショーのスケジュールや見る方向など、天体観測に必要な基礎情報も満載です

■書籍の詳細



書名：夜の絶景写真 星空風景編
著者：沼澤 茂美
発売日：2018年8月10日（金）
ページ数：160ページ
サイズ：B5変型判
価格：本体2,000円＋税
電子版価格：1,800円＋税 ※インプレス直販価格
◇書誌情報：<https://book.impress.co.jp/books/1118101049>

<目次>

撮影前に知っておきたい星空の基本的な知識
星空風景を撮るときに知っておきたいこと
星空風景を撮るための必要な機材と選び方
美しい星空風景が写せるカメラの設定値と撮り方の基本
情感あふれる星空風景が撮れるシーン別撮影テクニック
春から夏は夜空に架かる天の川に注目
秋から冬は天上の宝石をクローズアップ
明るい月夜の星空を幻想的に写す
星の動きを軌跡で表現する
夜空を彩るさまざまな天体ショーを写す
より美しく見せるための画像補正のコツ
春の星座図
夏の星座図
秋の星座図
冬の星座図
南天の星座図

以上

【株式会社インプレス】 <https://www.impress.co.jp/>

シリーズ累計 7,000 万部突破のパソコン解説書「できる」シリーズ、「デジタルカメラマガジン」等の定期雑誌、IT 関連の専門メディアとして国内最大級のアクセスを誇るデジタル総合ニュースサービス「Impress Watch」等のコンシューマ向けメディア、「IT Leaders」、「SmartGrid ニュースレター」、「Web 担当者 Forum」等の企業向け IT 関連メディアブランドを総合的に展開、運営する事業会社です。IT 関連出版メディア事業、及びデジタルメディア&サービス事業を幅広く展開しています。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：唐島夏生、証券コード：東証1部 9479）を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「旅・鉄道」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

【本件に関するお問合せ先】

株式会社インプレス 広報担当：丸山

TEL：03-6837-5034 E-mail：pr-info@impress.co.jp URL：<https://www.impress.co.jp/>